新庁舎建設特別委員会研修視察報告書

1．実 施 日　　令和 5 年1月31日（火）　1日間

2．参 加 者

委員長	佐藤久芳
副委員長	塚田義一
委　員	川田隆志
委　員	黒澤佳代子
委　員	中尾大助
委　員	澁木　茂
委　員	堀越幸広
委　員	都丸裕史
委　員	須田敏彦
委　員	山口　将
委　員	宮永真里子
委　員	渡邉　明
委　員	青木　満
議　長	田邉信雄
事務局長	中繁尚之
事務局次長	初谷英之

3．視 察 地　　群馬県沼田市　　令和 5 年1月31日（火）　午前10時～午前11時30分

視察日時　　栃木県下都賀郡壬生町　　〃　　午後3時～午後4時30分

4．交通機関　　借上バス（大型）

■本町の背景

本町の現庁舎の課題として（1）耐震性の不足、（2）老朽化への危惧、（3）防災拠点機能の不足、（4）狭あい化、（5）ユニバーサルデザインへの対応、（6）分散した庁舎機能　等が挙げられ、これまでこうした課題への対応、並びに新庁舎建設について検討を重ねてきました。

新庁舎には、多様化する社会構造や生活スタイルなど、時代の要請に適切に対応できる、町の中心拠点としての役割に加え、近年発生している災害への対策として、今まで以上に庁舎への安全性の確保が強く求められています。

そのため、利便性が低いことで来庁者に負担を掛けてしまうことなどの課題解決を図り、安心して利用でき、町民サービスをより向上させるため、先進地の庁舎の視察を行い、施設の概要や役割などを調査・研究し本町の新庁舎建設へ活かしていきます。

◎視 察 地：群馬県沼田市

◎視察内容：新庁舎建設について

【沼田市の概要】

面　　積：４４３．４６㎢
人　　口：４５，３０５人（令和4年12月末現在）
人 口 密 度：１０２，１６人／㎢

沼田市は、首都東京から約１２５キロメートルの群馬県北部に位置し、錫ヶ岳、皇海・袈裟丸山などで栃木県と接し、東部は日光連山・赤城山の山岳地帯です。また利根川・片品川・薄根川など大小１５の河川は、ダムによる発電や防災・首都圏の水がめとして重要な役割を持ち、関東平野を潤します。標高は２５０メートルから２，０００メートル級の山岳まで較差があり、山岳・森林・高原・湖沼・河川・渓谷、河岸段丘など、スケールの大きい変化にとんだ自然環境は、大きな特徴となっています。

恵まれた自然と豊富な温泉群・スキー場・ゴルフ場・史跡・果樹園、そして関越自動車道沼田インターチェンジによる交通アクセスの良さなどを背景に、日本有数の観光地となっています。
また、首都圏の食糧供給基地としても大きな役割を担っています。

【視察目的】

大泉町新庁舎建設にあたり、令和元年、沼田市にオープンした庁舎等複合施設「テラス沼田」を視察し、大泉町新庁舎建設のための調査・研究を行います。

【沼田市の視察成果】

庁舎等の複合施設「テラス沼田」は「にぎわいの拠点」「市民活動の拠点」「安心・安全の拠点」の３つをテーマに「明日の沼田をつくる元気づくりの拠点」を目指し、市内に分散していた庁舎を一つに集約して手続きがスムーズに行えるようにするとともに、市民活動を応援する施設や商業施設なども設置し、皆が親しみやすい施設となっています。

(1)　魅力ある快適な環境づくり

省エネルギーを考えた設計をしています。建物中央部のアトリウムは各階床面に吹き抜けをつくることで、ほぼ一日中太陽の光を取り入れられます。３階から７階までの高低差を利用した自然換気（重力換気）も可能になります。

夏は夜間に日中の残熱を排出し、外部の冷たい空気を取り入れることで日中の冷房効果を高めます。

⑵　災害に強く、安全・安心な建物

耐震補強に加え、既存建物の重量を減らす「減築」により、建物の安全性を高めました。また、非常用発電機や備蓄倉庫、防災トイレなどを備え、災害時の拠点としても利用できます。

⑶　市民に開かれた施設

議場スペース（5階）は休会中に机や椅子を収納し、多目的室として開放します。まちの広場（1階）や市民活動コミュニティテラス（6階）などと共に様々な活動に利用できます。

⑷　全ての人にわかりやすく、つかいやすい建物

建物１階の西側と南側に入口をつくり、市庁舎の窓口部門を集約した３階への直通エレベーターを備えています。

【まとめ】

令和元年５月に沼田市にオープンした新庁舎「テラス沼田」では、５階の会議フロアにある「Waltz ホール」「第２委員会室」「第３委員会室」等、普段は沼田市議会の議場や委員会室として使用されている会議室を、議会で使用していない期間に限り、有料で多目的利用のホールや会議室として使用することが出来ます。

収容人数も「Waltz ホール」約２１０名、「第２委員会室」約３０名、「第３委員会室」約１５名となっており、長机や椅子、ホワイトボードといった備品も充実していて、使用料金は1，６５０円（1時間当たり）となっており、講演会場やミニコンサート会場、ミニ上映会場として幅広く利用されているとのことです。

一方でレイアウトの変更には人手を要すとの事で、議会事務局にとっても重労働との事でした。

以上から、新庁舎建設特別委員会としては議場や委員会室の多目的な使用について大変参考になりました。

◎視 察 地：栃木県下都賀郡　壬生町

◎視察内容：新庁舎建設について

【壬生町の概要】

面　　積：６１．０６㎢
人　　口：３８，６００人（令和４年１２月現在）
人口密度：６３２，１７人／㎢

壬生町は栃木県央南部、北緯３６度２５分、東経１３９度４８分に位置し、東西８．０キロメートル、南北１２．５キロメートル、面積６１．０６平方キロメートルです。

東京からは北に約９０キローメートルの距離にあり、東・南は下野市、西は栃木市、北は鹿沼市と宇都宮市に隣接しています。

地域は、西境を思川、中央部を黒川、東境沿いを姿川が流れており、関東平野の北部に当たるほぼ平坦な地形で、海抜は５０～１００メートルです。

また、東武宇都宮線の４つの駅が町内にあるとともに、北関東自動車道壬生インターチェンジが東北自動車道と連結しており、広域的交通の利便性が高い町となっています。

壬生町では、恵まれた自然を背景に、原始・古代から多くの人々が暮らしていたことから、当時の遺跡が数多く確認されており、「毛野国」の中心地であったことを現在に伝えています。

【視察目的】

大泉町新庁舎建設にあたり、令和４年に壬生町にオープンしたばかりの新庁舎を視察し、大泉町新庁舎建設のための調査・研究を行います。

【壬生町の視察成果】

壬生町の新庁舎は、鉄筋コンクリート造りの３階建の本庁舎と、２階建の付属棟からなっており、いずれも大地震が発生した場合、構造体の補修をすることなく建築物を使用でき、人命の安全確保に加えて、十分な機能を維持できる「耐震構造」となっています。７２時間対応の発電機も備えており、災害等による停電発生の際にも、業務の継続が可能となっています。

レイアウトについても、町民の利便性を考え、窓口の多くを１階に集約するとともに、人にやさしい庁舎を目指し、わかりやすい表示を採用するなど、これまで不足していた「バリアフリー機能」が充実しています。

また、太陽光発電や洗浄水としての雨水の利用、自然の空気が循環する仕組みを採用するなど、環境に配慮した設備も取り入れています。

この庁舎が、これからの50年、100年先を切り拓き、壬生町に根差し、町の新たなシンボルとして多くの皆様に愛され、親しんでいただけるよう、また、非常時における安全安心の防災拠点として、さらに子育て支援や健康づくりの拠点として、その機能が十分に発揮できるよう、計画され取り組んでいました。

【まとめ】

令和４年５月にオープンしたばかりの壬生町役場新庁舎は、鉄筋コンクリート造の３階建の本庁舎と２階建の付属棟からなる、開放感にあふれた新庁舎となっています。

また、町と町民をつなぐ「結びの庁舎」を目指し、窓口機能が集約化されており、来庁者の動線を明確化することにより、上下階の移動がなく各種手続きが可能となっています。

さらに、窓口、執務、サポート（会議室・倉庫・更衣室等）を段階的に配置することにより、明快なゾーニングを図り、動線の明確化、業務の効率化がなされています。

これらの取り組みは、本委員会としても大変参考になるものでした。